

公民館報

まつもと

発行
2020
9/30

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 51

日本有数の甘くて美味しい!! 信州・松本、波田のスイカ

**日照時間と温度差が
甘味の決め手**

松本市西部の波田、和田、今井を中心に栽培されているスイカは、甘さに特徴があります。この地域は火山灰土の地層で水はけが良く、豊富な日照時間と澄んだ空気。それに加えて昼夜の温度差が大きいために甘くなる

と評判です。

スイカに多く含まれるシトルリンは、健康維持をサポートしてくれるアミノ酸の一種です。太陽と大地の恵みが育てた、夏一番の贈り物。

7月から収穫が始まったスイカは、9月18日まで選果場に並びます。皆さんの食卓にも届きましたか。

採りたてのスイカを抱えた子どもたちからは「重たい!」という声が聞こえてきそうですね…。



結ぶ市の巡回販売のキッチンカー

人と人を結ぶ

新日常「食」への取り組み

新型コロナウイルス感染症と向き合い、食品・商品の販売や提供について、新しい日常への対応が模索されています。

四賀支所前は 金曜日の昼

今は生活の質が変わり、3密を避けるため経済が滞っています。

高齢化や利便性の悪さで買物の機会が減った、四賀地区の飲食店が立ち上がりました。毎週金曜日の昼、四賀支所の玄関で地区内の飲食店や雑貨店、4店舗が営業しています。

結ぶ市

塞ぎ込んでしまいがちな気持ち、テイクアウトのお弁当や雑貨を通して買い物に来た人と人を結びたい…。

その思いを「結ぶ市」と名付けた企画者の田中ゆかりさんは、古民家カフェ「Sabbouしが」を営み、地元の人たちと米作りもしています。営業を始めて2カ月、四賀という地域とカフェの認知度も上がり、地区内外からの来店者が増えました。結ぶ市を通して気さくな声の掛け合いが増え、笑顔があふれています。今後は支所に足を運べない人たちのために、巡回販売を計画しています。

大手事務所も 金曜日の昼

毎週金曜日午前11時半からの1時間、大名町にある松本市役所大手事務所の2階、市



予約したお弁当の受け取り

民活動サポートセンターでお弁当の販売が行われています。前日の午後3時までにインターネットで予約したお弁当が、1日6店舗から届きます。お店とお客との接点がここにも生まれています。

参加するのは約20店舗の松本の飲食店で、お店とメニューは週替わり。毎週6種類のお弁当が「デリバリーマルシェ松本」のメニューとしてウェブサイトに掲載されます。インターネットが人を結ぶ入り口となり、温もりを中継します。

職場の近くに、こういう場所があるととても便利です。お弁当を買いに来た人も、小さな交流に参加できますね。

市内中心部の飲食店では、テイクアウトが増え、売り上げが伸びたといわれています。それぞれの店の味を知る良い機会かもしれません。市郊外の飲食店もまたS

NS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)を通して、広く知ってもらうことができました。

しかし、感染症の弊害は甚大で、いまだ終息の兆しは見えず、厳しい日々が続いています。それでも前向きに多くの人が食について考え、活動しています。

新しい「食」を願って

飲食店では、テイクアウトやネット販売を模索しています。それによって食べる側に選択肢が増えましたが、自由さが解消したわけではあり

ません。ソーシャルディスタンスは、あつという間に誰もが知る言葉になりました。店内のテーブルやイスの数が減り、仕切りのアクリル板も普通になりました。

食事のスタイルも変わりました。お客は静かに食事をし、お店も人と適正な距離を保ちます。

コロナの前には戻れないかもしれませんが、本来あるべき「楽しい食事」を取り戻すために、人と人を結ぶ工夫と努力で、現状を乗り越えていきます。

松本さんぽ

〈木漏れ日スタンド〉

テイクアウトしたゼラートを木陰でどうぞ! コロナ禍の街で、歩道の新しい活用が始まった。店先にテーブルや椅子を設置して、ホッとするとときを楽しんでもらおうという試み。マスクは外せないけれど、小さな笑顔が揺れていた。



(撮影: 2020.8.19 大名町)



1920年7月新校舎移転



2020年8月2日撮影

危機感を
持った市民の
会や松高同窓
会などが中心
になり、保存
運動が始まり
ました。
長野県県宝
調査委員会が
同年11月に本
館と講堂を県
宝に内定しま

開校と校風
旧制松本高等学校は長い招致活動の結果、1919（大正8）年に建設されました。各界で活躍する卒業生には北杜夫や白井吉見などの顔も見えます。学生たちはマントに破れ帽子（弊衣破帽）のパンカラながら、自治を尊ぶ校風を作り上げました。北杜夫は「どくとるマンボウ青春期」のなかで、松高時代の体験がもともと思われる記

難航した保存活動
述をしています。旧制高校制度廃止後、信州大学が校舎として使用していましたが、やがて建物を取り壊し跡地を売却する案、新施設を作る案などが浮上りました。73年松本県ヶ丘高校の火災により仮校舎となり、取り壊しを免れましたが、その後は荒れ放題、鳩や野良猫のすみかとなり多くの付属建物が取り壊されるに至りました。

まつもと今昔 50

重要文化財を使用できる珍しい形態の、あがたの森公園の旧制松本高等学校校舎が建設されて100年を迎えました。何度も解体の危機に直面しながら、その都度市民有志の方の力で解体を免れ、今日の姿があります。

わがまち自慢（新村地区） コーヒーマンズサロン・パーティオ新村 香りに包まれて

ブラジル、モカ、マンデリン、コロンビア。砂糖は無く一口サイズのチョコレート。しかし、最大のこだわりはパティオの名前の通り、気軽にくつろげる居場所を作ること。

8月11日午後1時半、新村公民館において参加者が男性だけのユニークな企画が再開されました。新村地区あたらしの郷協議会が主催で、決まっている内容は、少し懐かしめのBGMが流れる中、「コーヒーマンズ」です。20人くらいで大テーブルを囲むスタイルですが、この日

は密を防いで分散型です。思いつきから地区の現況まで話題は幅広く、特に松本大学の先生や学生と談笑する様子は現在の新村を象徴しています。他地区も注目のこのサロン、次回の第2火曜日はどんな香りに包まれるのでしょうか。



もう一杯飲むかい？

市民の活用も盛んに
した。77年、用地買収がもとで協議が難航しましたが、78年のやまびこ国体の際、講堂が事務局として使用されたこともあり、何度目かの取り壊しを免れました。その後松本市に建物活用を求める市民の声や国の助言などがあり、79年にあがたの森文化会館が、81年に旧制松高記念館が開館しました。

戦後発表された寺中構想の影響もあり、松本市は公民館活動がより盛んになりました。あがたの森文化会館は、公民館に対する市民の想いや、トレパン館長と呼ばれた初代手塚英男氏をはじめとする施設職員の尽力もあり、83年当時年間229団体の19万4千人が利用する施設になりました。

旧制松本高等学校校舎は、今日でも多くの市民に親しまれ、利用されています。

おこひる

来年、無事定年を迎えられるよう、今年仕事を頑張ろうと迎えた令和2年、なんと自分は新型コロナナウイルスのターゲット年代。在宅ワークが出来る分恵まれていたものの、感染拡大防止のため、花見は車から眺めるにとどめ、五月連休も夏休みも遠出を控え、新盆の親戚とも電話のみ、墓参りも個々にといった自粛生活▼地区行事や毎年楽しみのワイン／地酒／地ビール行事も中止が続く中、移住者の古民家再生活動が気になっていた四賀地区で「にしこりマルシェ」なるイベントがあるのを発見。気になっていたので見に来ようと久しぶりにお出掛け▼古民家カフェ、食事処をググって巡ったところ「マルシェ」出店のため、休業の結果、一部は場所や外観のみを確認。松枯れ風景に気を採みながらのドライブはほぼ一時間↓四賀地区は結構広い▼新しい生活様式に留意したマルシェでは出店の皆さんの会話や作品購入を楽しめ、今後のイベントも心待ちに。気になる新しい店も発見!! 四賀地区の変化をまた見に来ます。

歴史探訪 探ろう松本19

利便性の高い街 田川地区

古くは犀川通船の船着き場が設けられ、物資の集積所としてにぎわいました。今も松本駅のアルプス口があり、主要幹線も交差する交通の要衝です。

地域の概要

田川地区は美しいアルプスの山々が望める岳都松本の玄関、JR松本駅の西に広がった地域で、渚・巾上・中条の11町会で構成されています。

令和2年7月1日現在、1959世帯、人口3846人、高齢化率は27.6%と比較的低い地区です。



アルプス口から田川地区を望む

歴史と特色

昔は田川と奈良井川に囲まれ、葦の生い茂る文字通りの



明治中期の犀川通船(与曾井氏所蔵)

「渚」で、川にサケが遡上してました。巾上には、「犀川通船記念碑」があり、篠ノ井線が開通するまで、松本城下町と信州新町を水路で結んでいたことを今に伝えています。また、道幅3メートル程の野麦街道が現存し、5か所の道祖神が当時をしのばせます。渚城には守り神があったと伝えられ、南の八幡宮は国道19号沿いに現存します。西の渚大神社には県下一大きいとされる大太鼓があり、お祭りの時には「ドン、ドン」と遠くまでも響き渡っています。

地区の発展と未来

いくつもの高層マンションが建ち、絹の精練所は複合商業施設になり、地区の姿は大きく変わりました。消防署と警察署ができ、2つの総合病院もあります。利便性が高いので、国道19号線拡幅工事が完成すれば、さらなる発展が期待できそうです。

田川公民館の前庭を利用して「0840(おはよう)ラジ体操の会」が、毎週火曜日と木曜日の午前8時50分からラジオ体操第一・第二と、田川賛歌に合わせて地区の運動指導員が作った田川体操を行っています。地区の住民が自分たちの健康を守るために自主的に立ち上げた集まりで、今年で4年目に入りました。コロナ禍の中でも、感染予防対策をして続けています。この会は田川地区でも渚のみで行っており、巾上では別の場所で行っていました。国道や河川で地区内が分断されてしまうため、地区全体で活動を共にする難しさがあり、課題となっています。地区のシンボルマークを公募し制作するなど、地区の一体感を生み出す取り組みも進められています。

松本平の野鳥たち

カワガラス。スズメより大きくビツと濁った声で鳴く。カラスというがスズメの仲間。「ずんぐりむっくり」「チョコレート色」「短めの翼」が特徴。平地から山地にかけてのきれいな水を好み、松本市街地の河川でも1年を通して見られる。川底を這うように歩いてエサを探す。



親に餌をねだる2羽の雛

(撮影：2020.5.8 安曇野市)



これなあに？

旧松本区裁判所庁舎(重文)正門前に植えられました

五介翁 お手植えの松

まるで盆栽を大きくしたかのよう、横に伸びる松。明治23年松本製糸所初代所長今井五介が寶館庭に植えたものです。その後カタクラモール開店三周年に記念樹として南口前に移植され、閉店時には市民の声を受け片倉工業の好意により、平成27年に松本市歴史の里に移植されました。